

一般社団法人日本家族看護学会  
2022年度定時社員総会 議事録

日時:2022年6月11日(土)15:00-16:00

場所: Zoomによる開催

参加者(敬称略・順不同):

理事/社員:上別府圭子、深堀浩樹、佐藤伊織、児玉久仁子、井上玲子、古瀬みどり、荒木田美香子、  
山崎あけみ、小林京子、上野里絵、池添志乃、池田真理、竹熊千晶、中野綾美、奈良間美保、  
法橋尚宏、本田順子、門間晶子、野嶋佐由美、鈴木和子

監事:山口桂子、式守晴子

学術集会長:山本則子(第28回)、濱田裕子(第29回)

幹事:キタ幸子(書記)、鈴木征吾(入室管理等)

## I. 開会の辞

- ・上別府理事長より、4月1日より法人化して初めての記念すべき第1回の総会になった旨が説明された。法人化後は、総会の時期と招集する対象が変わる旨が説明された。また定時社員総会の案内メールに間違いがあった旨のお詫びがあった。
- ・深堀理事より、社員29名のうち、社員総会開催までに委任状提出者5名、議決権行使者2名の連絡を受けており、社員総会開始時における社員の出席者は21名で合計、28名(当日は29名と報告したが誤認のため28名に修正)となり、全社員の過半数を満たしており、定款22条に基づき、定時社員総会は成立した旨が説明された。
- ・議長は上別府理事長が務めることが説明された。

## II. 議事録署名人選出

- ・理事定款第23条により、社員総会の議事録には議長と社員総会において選任された議事録署名人が記名押印または署名することと定められている。自薦・他薦はなかったため、議長より、鈴木和子氏と門間晶子氏の推薦があり、議事録署名人を務めることとなった。

## III. 報告事項

### 1. 庶務報告

#### 1) 会員・会費納入状況報告(資料1)

- ・深堀理事より、2022年3月31日現在の会員数は1619名、そのうち1277名の方に2021年度の会費支払いがあったことの報告があった。

#### 2) 2022年度委員会事業計画報告(資料2)

- ・2021年度は5回の理事会、1回の評議員会を開催し、2021年9月25日にZoomにおいて総会を開催した。9月の総会では、日本家族看護学会の一般社団法人化が承認されたことが報告された。
- ・2022年度はこれまでに2回の理事会を開催しており、本で行われた理事会では、第29回学術集会や会計要領について検討した(詳細は資料2を参照)ことが報告された。

・資料2には含まれていないが、2022年5月30日に、一般社団法人日本家族看護学会 新理事・監事候補者の承認の件に関して、電子メールの回覧によるみなし理事会を開催した。この件についてはここでは説明せず、決議事項の4において資料9をもちいて詳細に説明する旨が説明された。

## 2. 2022 年度 委員会事業計画報告(資料3)

・上別府理事長より、基本的には法人化前に報告していた事業計画に微修正を加えたものとなることが説明された。

・なお、任意団体時には、委員会活動計画は総会での決議事項であったが、一般社団法人化に伴い、定款32条により法人の業務執行の決定は理事会の職務となったため、委員会事業計画は報告事項となったことが説明された。

## 3. 2022 年度 予算案報告(資料 4)

・佐藤理事より、2022 年の予算案が説明された。

## 4. 新評議員の報告(資料5)

・上別府理事長より、新評議員について報告された。なお、定款13条により本法人では、評議員は一般法人法上の「社員」となったこと、評議員選出規定に基づき選出を行い、資料5の通り48名が新評議員として第1回理事会で承認されたことが報告された。法人化後、評議委員が30名から48名になったことの説明があった。

## 5. 第 29 回学術集会について

・上別府理事長より、濱田学術集會会長は本学会の一般社団法人化前に学術集會会長として選任されているが、一般社団法人化に伴い改めて学術集會会長の選任の決議を行うため、5号議案にてあらためて選任する予定である旨が説明された。

・濱田学術集會会長より、第 29 回学術集會の進捗状況(プログラム、助成金、演題登録数など)が説明された。

## 6. 第 30 回学術集会、第 31回学術集会について

・上別府理事長より、第30回、31回学術集会について報告された。第30回学術集會会長については、山崎あけみ氏が選任され、すでにご準備を開始している旨が報告された。また第31回学術集會会長についても理事会で検討し、井上玲子理事に依頼し内諾を得ている旨が報告された。山崎氏と井上氏の選任についても、5号議案にて決議される予定であり、決議の後に両名の挨拶がある予定であることが説明された。

## IV. 決議事項

・上別府理事長より、決議は、Zoom の投票機能を用いること、1号議案から5号議案までであるが、投票数の集計を円滑におこなうため、1議案ごとに決議を行うことの説明があった。

### 1号議案 2021年度決算報告および監査報告(資料6)

・佐藤理事より、2021 年度の決算報告がされた。その後、山口監事・式守監事より、監査報告がされた。

・投票(Zoom)の結果、「第1号議案 2021 年度決算報告および監査報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成 27 票、反対 0 票となり、承認された。

### 2 号議案 2021 年度・2022年度 委員会事業報告(資料7)

・上別府理事長より、任意団体時には委員会の活動報告は報告事項としていたが、一般社団法人化に伴い定款17条により、事業報告は社員総会の決議事項となったことが説明された。

・奈良間理事(編集委員会)より、2021 年度の委員会開催(4 回)、機関誌(第 27 巻)発刊、JFN との抄録交換、学術集會での委員会企画等の活動報告がされた。2022 年度も機関誌(第 28 巻)発刊、JFN との抄録交

換、学術集会の企画を進めていることが報告された。

・法橋理事(研究促進委員会)より、2021年度の第7回・8回家族看護学研究セミナー開催、第7回研究奨励賞の選考、JFNとの抄録交換等の報告がされた。2022年度は第8回家族看護学研究セミナーの資料執筆、第9回家族看護学研究セミナーの企画、第8回研究奨励賞の選考、JFNとの抄録交換を進めている。

・児玉理事(実践促進委員会)より、2021年度の家族看護実践セミナー開催、よろず相談(オンライン)、学術集会での委員会企画、学会誌への委員会報告(コロナ禍における家族ケアの必要性と困難)の報告がされた。2022年度は、家族看護実践セミナーの企画、HPの更新(家族支援専門看護師の活動報告)の報告がされた。

・中野理事(教育促進委員会)より、2021年度は家族看護教育に関するネットワーク作りの企画、家族看護の教育ツールの開発と配信、2022年度は学術集会での委員会の企画を進めていることが報告された。

・池田理事(国際交流委員会)より、2021年度のIFNA(International Family Nursing Association)との交流・ネットワークの構築、第16回IFNCで本学会の広報、国際交流セミナーの開催等の報告がされた。2022年度は、IFNAとの交流・連携を進め、国際交流委員会セミナーの企画等を進めている旨の報告があった。

・荒木田理事(広報委員会)より、2021年度の委員会の開催、HPの更新とメールマガジン発行、学術集会の委員会開催(理事長と話そう)について報告された。2022年度は、法人化に伴いHPの大幅な変更とメールマガジンの発行がされたことが報告された。

・井上理事(将来構想委員会)より、2021年度は引き続き、法人化に向けた取り組みと準備、2022年3月には任意団体を解散、4月には法人として登記等、事務局と共に進めてきたことが報告された。また評議委員のための活動助成、法人化に伴う選挙体制を整え、選挙となったことが報告された。

・森山理事(社会活動・政策委員会、深堀理事代理報告)より、2021年度は移行期ケアの書籍化、看保連の参加に関する報告があった。2022年度は、移行期ケアの書籍化を引き続き進めることが報告された。

・野嶋理事(災害対策委員会)より、災害時の家族看護支援方法の抽出、家族看護学セミナー開催(教育促進委員会と合同セミナー)に関する報告がされた。

・深堀理事(利益相反管理委員会)より、利益相反管理委員会の設立が認められたこと、今後利益相反管理指針・細則の検討を継続する旨の報告がされた。

・投票(Zoom)の結果、「第2号議案 2021年度・2022年度 委員会事業報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成27票、反対0票となり承認された。

#### 3号議案 第28回学術集会報告(資料8)

・山本則子第28回学術集会長より、第28回学術集会の報告(プログラムや演題登録数、参加者数、収支決算、寄付等)が報告された。

・投票(Zoom)の結果、「第3号議案 第28回学術集会報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成27票、反対0票となり承認された。

#### 4号議案 新理事・監事の選任(資料9)

・上別府理事長より、一般社団法人化に伴い、定款17条により理事及び監事の選任は、社員総会の決議事項となること、資料9に沿い、2022年4月8日から14日を投票期間として理事・監事選挙を行い、理事候補者10名、監事候補者2名が選挙管理委員会により理事会に報告されていることが説明された。

・2022年4月16日に行われた第1回理事会の開催時点においてはまだ候補者の報告ができなかつたため、理事

会で社員総会までの予定を検討する際に、理事・監事候補者の選任は、メールでの審議によるみなし理事会にて行うことと決定したことが報告された。一般社団法人化後初めてのみなし理事会だったため、行政書士の指導のもとに法令に準拠してメールにて必要文書を回覧し、5月30日に全理事の承諾と全監事の異議なしが確認され、みなし理事会が成立し理事・監事候補者の理事会での承認を終えたことが報告された。

・投票(Zoom)の結果、「第4号議案 新理事・監事の選任」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成 27 票、反対 0 票、となり承認された。

#### 5号議案 学術集會長の選任(資料10)

・上別府理事長より、第 29 回～第 31 回の学術集會長について、下記の通り、提案された。

第29回学術集會長:第一薬科大学 看護学部 濱田 裕子氏

第30回学術集會長:大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻 山崎 あけみ氏

第31回学術集會長: 東海大学 医学部看護学科 井上 玲子氏

・なお、第29回および第30回学術集會長は、本学会が 2022 年 4 月に法人化される前の任意団体時に既に承認されているが、法人化に伴い改めて選任することが報告された。

・投票(Zoom)の結果、「第5号議案 学術集會長の選任」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成27票、反対0票、となり承認された。

・濱田裕子第 29 回学術集會長、山崎あけみ第 30 回学術集會長、井上玲子第 31 回学術集會長より挨拶があった。

#### V. 閉会の辞

・上別府理事長より、コロナ禍で大変な時期での学会活動であったが、その中でも、学会の法人化や活発な委員会活動にご協力いただいたことへの御礼があった。

2022 年 6 月 11 日

議長

上別府 圭子

議事録署名人

鈴木 和子

議事録署名人

門間 晶子

